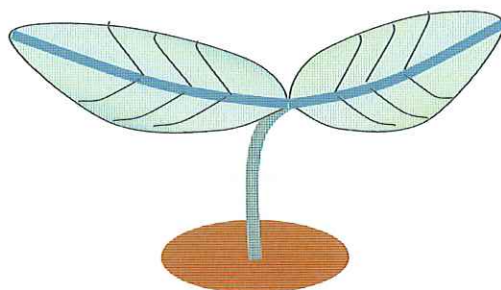


環境経営レポート

— 58期('18/7~'19/6) —



2019年12月27日

2020年 9月10日 (改訂)

コーラゴーキン株式会社

(複製承認印省略)



コーラゴーキン株式会社は、環境活動の取組みとして、'06年8月に『エコアクション21』の認証・登録されました。

夏季・冬季の節電（デマンドのピークカット）は、エンジンコンプレッサーを使用し、デマンド管理を実施しました。

『環境経営レポート』には、2009年版へ移行により、'19年7月以降の内容も追記してあります。

目次

I. 組織の概要	page2
II. 対象範囲	page3
III. 環境方針	page4
IV. 環境目標とその実績	page5～page8
V. 主要な環境活動計画の内容	page9
VI. 環境活動の取組結果とその評価	page10～page14
VII. 環境関連法規への違反、訴訟の有無	page15
VIII. 代表者による全体評価と見直しの結果	page16
IX. 次年度の取組内容	page16

I. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者の氏名

コーラゴーキン株式会社 本社工場

代表取締役社長 小浦 利一郎

2. 所在地

〒366-0001

埼玉県深谷市中瀬550番地1

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：総務課長 島崎 宏

担当者(EA21事務局)： 同 上

連絡先：TEL. 048-587-2146(代)

FAX. 048-587-2213



4. 事業活動の内容

当社は、アルミダイカスト製品（自動車部品・通信電機器具部品等）を9種類のアルミニウム合金の材質を使用し、鋳造工法も多岐にわたり、その鋳造から仕上げ・機械加工までの一貫体制を整え、多くのお客様に納入しています。

5. 事業の規模

事業の規模	単位	42期 ('02/7~'03/6)	43期 ('03/7~'04/6)	44期 ('04/7~'05/6)	45期 ('05/7~'06/6)	46期 ('06/7~'07/6)	47期 ('07/7~'08/6)
原材料購入量	t	1,601	1,673	1,841	1,759	1,631	1,661
売上高	百万円	1,317	1,299	1,450	1,660	1,829	1,768
従業員 (派遣は含まず)	人	54	54	56	57	57	59
床面積	m ²	2,659	2,659	2,659	2,942	3,032	3,032
事業の規模	単位	48期 ('08/7~'09/6)	49期 ('09/7~'10/6)	50期 ('10/7~'11/6)	51期 ('11/7~'12/6)	52期 ('12/7~'13/6)	53期 ('13/7~'14/6)
原材料購入量	t	1,236	1,744	1,614	2,113	1,998	1,999
売上高	百万円	1,261	1,504	1,566	1,722	1,577	1,639
従業員 (派遣は含まず)	人	58	61	62	61	62	64
床面積	m ²	3,032	3,032	3,270	3,270	3,270	3,270
事業の規模	単位	54期 ('14/7~'15/6)	55期 ('15/7~'16/6)	56期 ('16/7~'17/6)	57期 ('17/7~'18/6)	58期 ('18/7~'19/6)	59期 ('19/7~'20/6)
原材料購入量	t	1,745	1,746	1,928	1,904	2,269	
売上高	百万円	1,506	1,536	1,594	1,596	1,787	
従業員 (派遣は含まず)	人	63	65	70	69	71	
派遣社員	人	—	—	—	—	41	
床面積	m ²	3,270	3,270	3,270	3,814	3814	

Ⅱ. 対象範囲（認証・登録範囲）

1. 活動範囲

アルミダイカスト製品（自動車用、通信電機器具用等）の製造

2. エコアクション21の推進体制

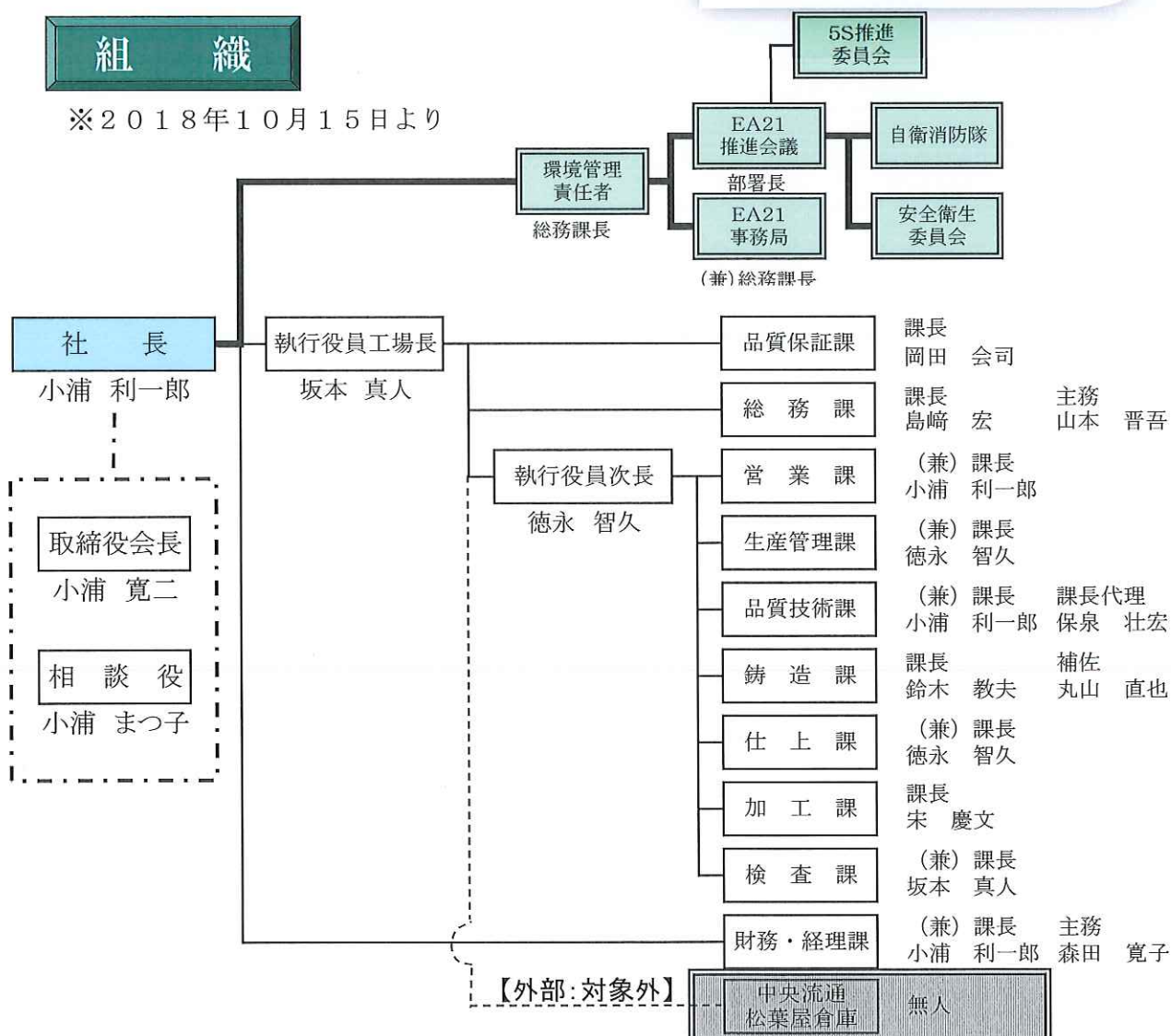
当社のエコアクション21(EA21)を運用する為の組織を下記のとおり制定し、推進しています。

EA21推進会議メンバーです。



組織

※2018年10月15日より





Ⅲ. 環境方針

《基本理念》

当社は、社会の一員として『地球環境保全』が、全生命に共通する課題であることを認識し、法令順守はもとより、『経営理念』の一つである『時流変革主義』に基づき、時流に乗り遅れることなく、事業活動の全領域にて、環境保全に配慮し、行動することにより、変転する市場と顧客に信頼される企業を目指します。

《行動指針》

当社は、事業活動“ダイカスト製品（自動車用、通信電機器具用等）の製造”の全領域で、環境に何らかの影響を与えていることを認識した上で、環境に優しい活動を推進します。

1. 省資源、省エネルギーの推進を図ります。
2. 環境関連法令を遵守します。
3. 次の事項を重要な課題として、環境目標を設定します。顧客ニーズの多様化へ対応する為に、一貫生産や多様な工法の提案などの効果的な取り組みを行います。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 排水量の削減
4. 有害化学物質使用状況の把握とその適正管理を行います。
5. 『環境方針』の周知徹底を含む、環境教育を実施し、全社員の環境意識の向上を図ります。

最終改訂日 2019年 7月 1日

制 定 日 2005年11月10日

コーラゴーキン株式会社

代表取締役 社長

小浦利一郎

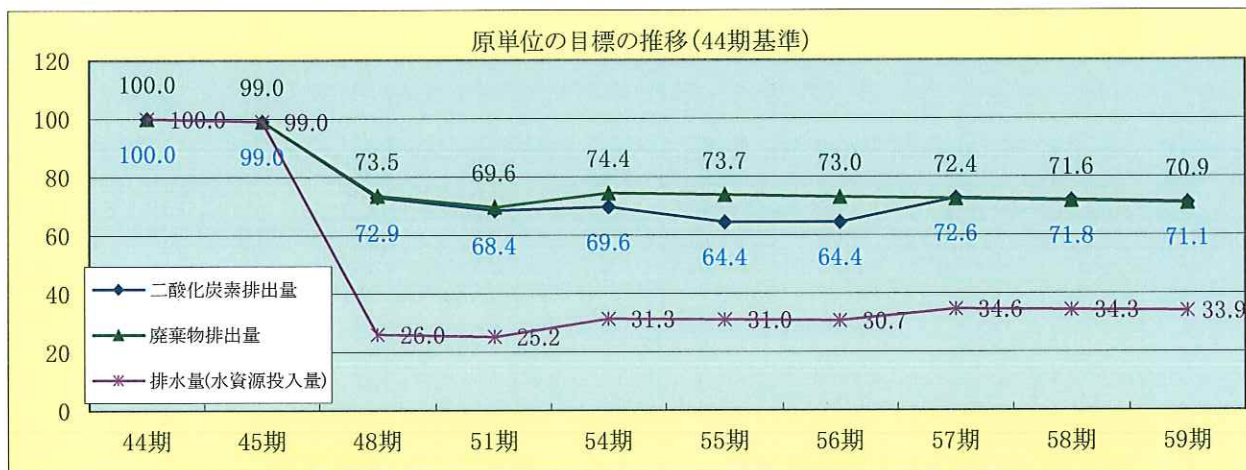


経営方針及び品質方針と共に、各職場に掲示しています。



IV. 環境目標とその実績

44期に活動をスタートして12年が経過した為、3年間の目標を見直し、当社における56期('16/7~'17/6)の環境負荷実績に基づき、各項目毎に目標を定め、活動しています。 原単位:生産額当たり(47期に売上額より見直し)



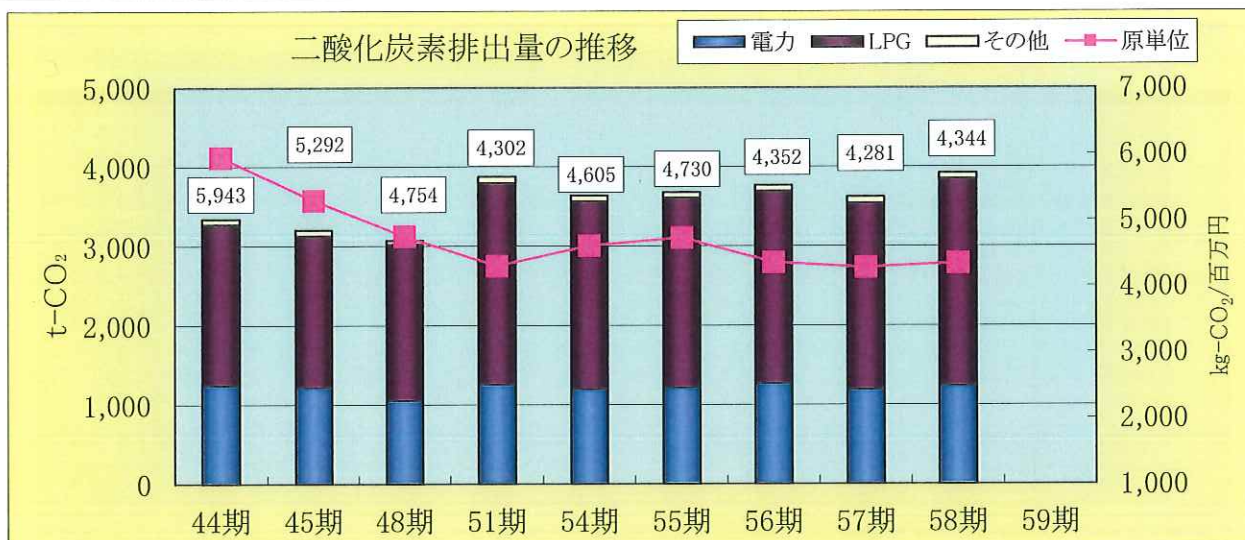
1. 二酸化炭素排出量 (エネルギー消費) (※1)



	単 位		基準値(47期)	48期 ('08/7~'09/6)	49期 ('09/7~'10/6)	50期 ('10/7~'11/6)
	t-CO ₂	実績	3,510	3,071	3,694	3,614
第2中期計画	(原単位)	目標	—	4,331 (▲1%)	4,288 (▲2%)	4,244 (▲3%)
	kg-CO ₂ /百万円	実績	4,375	4,754	4,208	4,324
	結 果					
	単 位		基準値(50期)	51期 ('11/7~'12/6)	52期 ('12/7~'13/6)	53期 ('13/7~'14/6)
	t-CO ₂	実績	3,614	3,877	3,669	3,717
第3中期計画	(原単位)	目標	—	4,065 (▲6%)	4,065 (▲6%)	4,065 (▲6%)
	kg-CO ₂ /百万円	実績	4,324	4,302	4,513	4,554
	結 果					
	単 位		基準値(第2中期)	54期 ('14/7~'15/6)	55期 ('15/7~'16/6)	56期 ('16/7~'17/6)
	t-CO ₂	実績	3,460	3,641	3,680	3,770
第4中期計画	(原単位)	目標	—	4,135 (▲6%)	3,827 (▲13%)	3,827 (▲13%)
	kg-CO ₂ /百万円	実績	4,399	4,605	4,730	4,352
	結 果					
	単 位		基準値(56期)	57期 ('17/7~'18/6)	58期 ('18/7~'19/6)	59期 ('19/7~'20/6)
	t-CO ₂	実績	3,770	3,621	4,792	
第5中期計画	(原単位)	目標	—	4,265 (▲2%)	4,221 (▲3%)	4,178 (▲4%)
	kg-CO ₂ /百万円	実績	4,352	4,281	4,344	
	結 果					



58期('18/7~'19/6)環境経営レポート



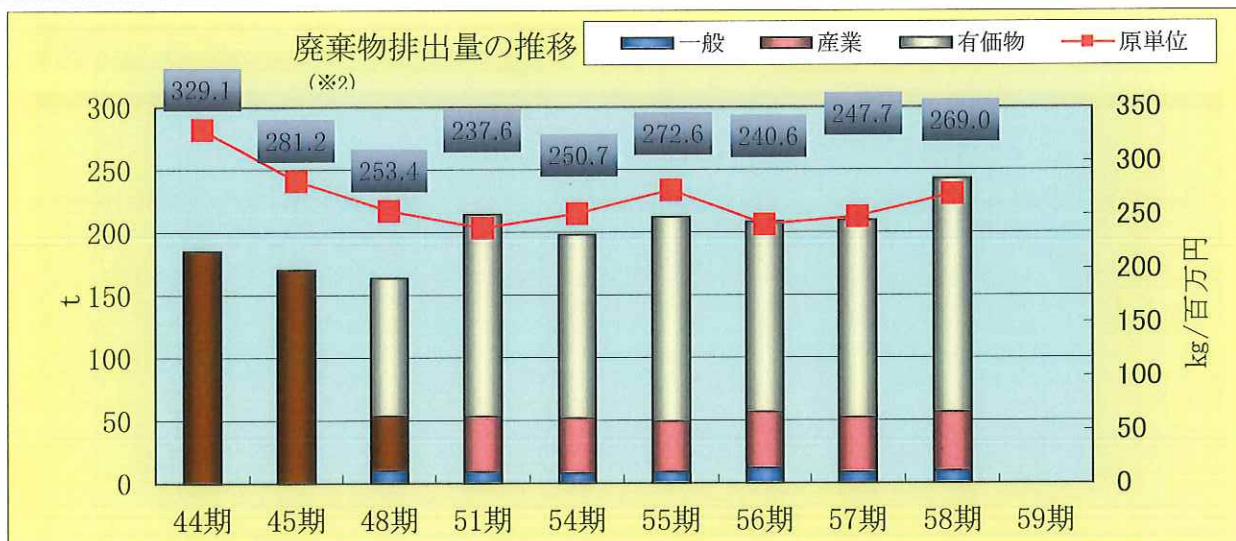
(※1) 二酸化炭素排出量については、電力の排出係数のデフォルト値を、「0.495kg-CO₂/kWh」東京電力(株)にて、LPGの排出係数「0.0161 tC/GJ」にて44期から再算定してあります。

2. 廃棄物排出量(有価物含む)

(※2)



	単 位		基準値(47期)	48期 ('08/7~'09/6)	49期 ('09/7~'10/6)	50期 ('10/7~'11/6)
	t	実績	196.0	163.7	230.6	193.4
第2中期計画	(原単位)	目標	—	242.0 (▲1%)	239.5 (▲2%)	237.1 (▲3%)
	kg/百万円	実績	244.4	253.4	262.7	231.5
	結 果					
	単 位		基準値(50期)	51期 ('11/7~'12/6)	52期 ('12/7~'13/6)	53期 ('13/7~'14/6)
	t	実績	193.4	214.1	221.4	202.1
第3中期計画	(原単位)	目標	—	229.2 (▲1%)	226.9 (▲2%)	224.6 (▲3%)
	kg/百万円	実績	231.5	237.6	272.3	247.5
	結 果					
	単 位		基準値(53期)	54期 ('14/7~'15/6)	55期 ('15/7~'16/6)	56期 ('16/7~'17/6)
	t	実績	193.4	198.2	212.0	208.4
第4中期計画	(原単位)	目標	—	245.0 (▲1%)	242.6 (▲2%)	240.1 (▲3%)
	kg/百万円	実績	247.5	250.7	272.5	240.6
	結 果					
	単 位		基準値(56期)	57期 ('17/7~'18/6)	58期 ('18/7~'19/6)	59期 ('19/7~'20/6)
	t	実績	208.4	209.5	242.8	209.4
第5中期計画	(原単位)	目標	—	238.2 (▲1%)	235.8 (▲2%)	233.4 (▲3%)
	kg/百万円	実績	240.6	247.7	269.0	240.9
	結 果					



(※2) 廃棄物排出量は、47期より一般廃棄物、産業廃棄物及び有価物に分けてありますが、44期から46期までは有価物等を合算した廃棄物排出量となっています。

(1) 産業廃棄物の推移

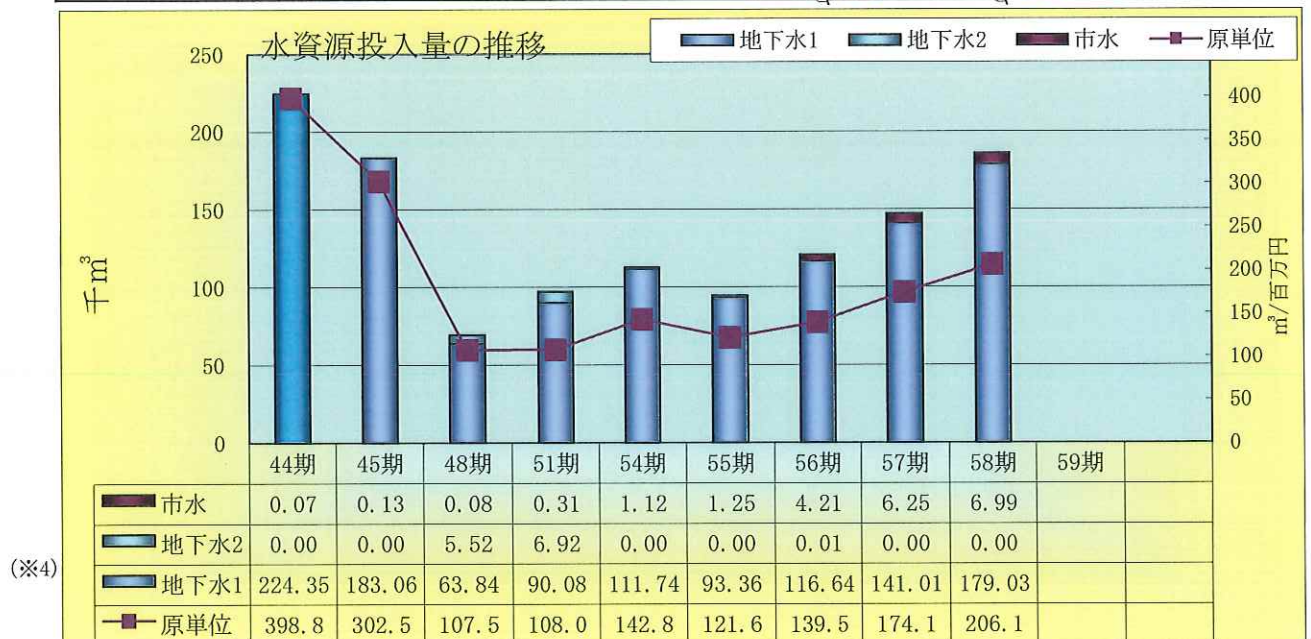
種 類	47期	48期	49期	50期	51期	52期	53期
廃油・含油水(t)	29.45	32.10	23.38	27.75	32.03	37.27	35.30
廃プラスチック(t)	4.05	3.58	4.45	5.29	6.17	4.63	4.28
木くず(t)	1.99	1.58	3.09	2.84	3.40	0.86	1.07
煉瓦くず(t)	2.23	0.74	7.49	1.16	2.34	1.11	3.07
汚泥(t)	0	0	0	0.77	0.18	0	0
金属くず(t)	7.67	5.31	0	0	0	0	0
合 計	45.39	43.31	38.41	37.81	44.12	43.87	43.72

種 類	54期	55期	56期	57期	58期	59期	60期
廃油・含油水(t)	35.96	34.45	40.21	37.83	40.61		
廃プラスチック(t)	4.23	3.72	2.92	2.64	4.65		
木くず(t)	1.48	1.54	0.70	0.33	1.49		
煉瓦くず(t)	1.96	0.49	0.75	0	0		
汚泥(t)	0	0	0.25	2.96	0		
金属くず(t)	0	0	0	0	0		
PCB等(t)	—	0.23	0	0	0		
合 計	43.63	40.43	44.83	43.76	46.75		

58期('18/7~'19/6)環境経営レポート

3. 水資源投入量

計画期間	単 位	基準値(47期)	48期 ('08/7~'09/6)	49期 ('09/7~'10/6)	50期 ('10/7~'11/6)
中期第2計画	千m ³	実績	84.1	69.5	82.1
	(原単位)	目標	— (※3)	103.8 (▲1%)	102.7 (▲2%)
	m ³ /百万円	実績	104.8	107.6	96.7
	結 果				
計画期間	単 位	基準値(50期)	51期 ('11/7~'12/6)	52期 ('12/7~'13/6)	53期 ('13/7~'14/6)
中期第3計画	千m ³	実績	80.8	97.3	186.0
	(原単位)	目標	—	95.7 (▲1%)	94.8 (▲2%)
	m ³ /百万円	実績	96.7	108.0	206.1
	結 果				
計画期間	単 位	基準値(53期)	54期 ('14/7~'15/6)	55期 ('15/7~'16/6)	56期 ('16/7~'17/6)
中期第4計画	千m ³	実績	102.9	112.9	94.6
	(原単位)	目標	—	124.8 (▲1%)	123.6 (▲2%)
	m ³ /百万円	実績	126.1	142.8	121.6
	結 果				
計画期間	単 位	基準値(56期)	57期 ('17/7~'18/6)	58期 ('18/7~'19/6)	59期 ('19/7~'20/6)
中期第5計画	千m ³	実績	120.9	147.3	186.0
	(原単位)	目標	—	138.1 (▲1%)	136.7 (▲2%)
	m ³ /百万円	実績	139.5	174.1	206.1
	結 果				



(※3) 排水量(水資源投入量)の原単位は、44期記録がない為、45期実績にて算出してあります。
 (※4) 平成20年8月に休止していた井戸の使用を再開しましたが、平成25年4月に休止しました。
 (※5) 夏季の節電対策の為、検査場屋根に散水を開始しました。

V. 主要な環境活動計画の内容

1. 二酸化炭素排出量の削減（原単位：生産額百万円当り）

二酸化炭素排出量は、56期実績に対して、今期：3%以上の削減を目標としています。

尚、主要な項目としては、56期実績より全体の98.0%を占めている、購入電力（33.6%）、LPG（64.4%）の2項目としています。

- (1) 設備稼働率の向上
- (2) コンプレッサーの稼働状況の管理と点検
(エアー漏れ対策)
- (3) 溶解(保持)炉の効率向上（更新含む）
- (4) 節電（電灯の間引き, エアコンの使用制限等）

《MEMO》

铸造設備が停止していても、溶解(保持)炉は、アルミ合金の溶湯温度を保持する為に、常に稼働している。

铸造設備の停止が、5日以上の場合には、溶湯を汲出し、炉を原則停止とします。

2. 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量は、56期実績に対して、今期：2%以上の削減を目標とし、飲料水の自動販売機(外部業者)による廃棄物は、45期より適用除外としています。

- (1) 木パレ納入業者への返却の徹底 適用除外
- (2) ダンボールの再利用
- (3) 廃棄物から有価物へ



3. 水資源投入量の削減（原単位：生産額百万円当たり）

水資源投入量は、56期実績に対して、今期：2%以上の削減を目標としています。

- (1) 冷却水の循環率向上
- (2) 節水の徹底
- (3) 散水・放流方法の見直し



揚水機水量計

4. 法令遵守の整備

- (1) 必要な資格の整備
- (2) 届出の確認（届出の提出）
- (3) 資格等の取得（教育）



5. 有害化学物質使用状況の把握とその適正管理

- (1) SDS（安全データシート）等による確認

VI. 環境活動の取組結果とその評価

1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 設備稼働率の向上を図るため、専任者の保全活動をしました。

改組して総務課に保全係を移動しました。(平成22年7月)

(2) 専任者によるコンプレッサーの稼働状況の管理と点検を実施しました。

定期巡回によるエアリー漏れの点検・修理を実施しています。



(3) 溶解(保持)炉の効率は、ガス量、空気量の比率の見直しを実施しています。

溶解(保持)炉については、'18年8月に3基、'18年12月に3基、'19年4月に6基の補修を実施しました。

※気体密度(購入量:t/使用量:m³)として監視してます。

(4) 夏季・冬季の節電については、電灯の間引き、エアコンの使用制限、エンジンコンプレッサーの使用でデマンドのピークカットを実施しました。

58期実績結果		評価
58期目標 56期実績に対し 3%減 (kg-CO₂/百万円)	力 電	56期実績に対し 6.3%減 (kg-CO₂/百万円) 今年の使用量は、'18年6月、12月にダイカストマシンを更新(1台)、増強(200t⇒350tに1台)した結果、56期実績に対して、-2.4%でした。
	LPG	56期実績に対し 3.3%増 (kg-CO₂/百万円) 溶解保持炉の使用量は、製品群の変化により56期実績に対して、+7.6%でした。

《MEMO》

L P G (プロパンガス)

’09年10月にブタン・プロパンガスからプロパンガスに変更しました。

バルクタンク

湯洗浄(温水)【加工課】

溶解(保持)炉【鑄造課】

単位: kg

ボンベ

金型の予熱【鑄造課】

食堂

単位: m³

1 m³ = 2.07 kg として換算しました。

鑄造課にて使用している燃料(L P G)に関しては、各鑄造機毎に溶解(保持)炉があり、それぞれにガスメーター(単位: m³)が設置されている為、鑄込重量1 t 当たりの原単位にて管理しています。

溶解(保持)炉の
ガスメーターです。

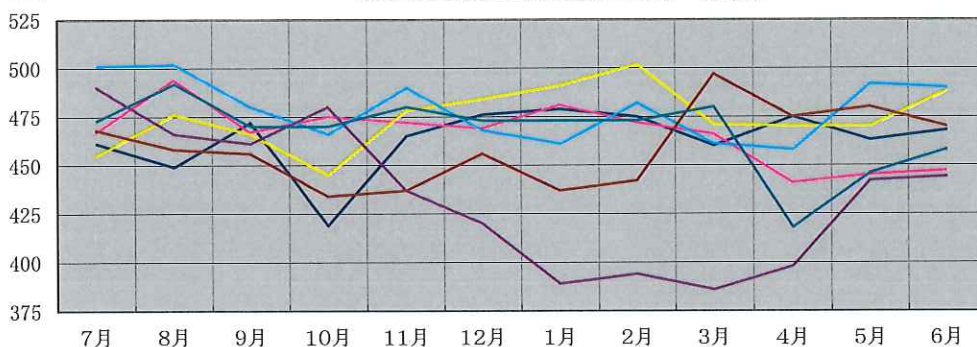


《MEMO》

鑄込重量とは、金型に充填されたアルミの重量で、製品部重量と製品部以外(湯口部、オーバーフロー部等)の総重量です。尚、製品部以外は、再溶解し、原材料として使用されます。

(kW)

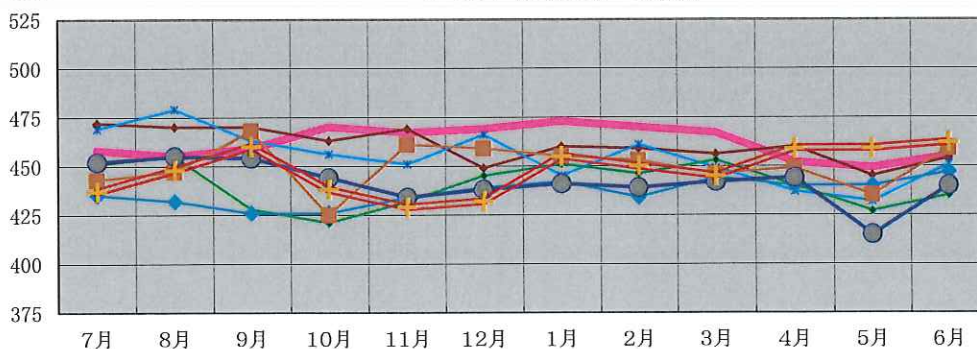
東京電力最大需要電力(44期~50期)



44期
45期
46期
47期
48期
49期
50期

(kW)

デマンド値(51期~58期)

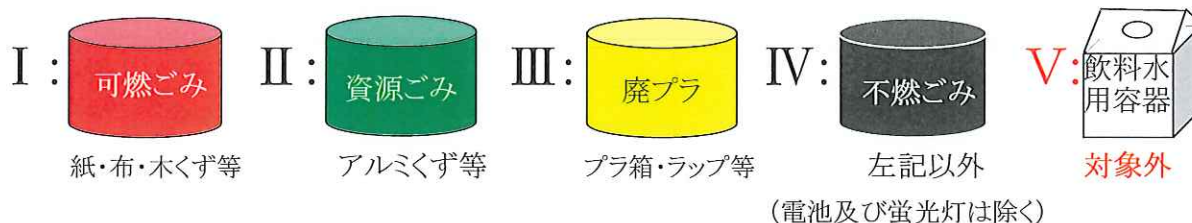


51期
52期
53期
54期
55期
56期
57期
58期

58期('18/7~'19/6)環境経営レポート

2. 廃棄物排出量の削減

(0) ごみの分別化の定着を目指して、45期のE A 2 1推進会議にて分別方法を見直しの協議し、決定しました。



(1) 木パレ納入業者への返却の徹底を推進をしています。

(2) ダンボールの再利用を推進をしています。

(3) 廃棄物から有価物への転換を推進をしています。

58期目標		58期実績結果	評価
56期実績に対し 2%減 (kg/百万円)		 56期実績に対し 11.8%増 (kg/百万円)	今期は、56期の排出量に対して 一般廃棄物は、 -18.1% 、 産業廃棄物は、 +4.3% 、 有価物は、 +22.7% でした。

3. 水資源投入量の削減

(1) 冷却水循環施設の設置【2006年11月設置】

金型冷却に使用した水の再利用を実施しています。



《MEMO》
 夏期には、冷却能力と地下水の揚水との電力関係で再利用せずに放流する水量が多くなっています。

(2) 水資源の『無駄使い防止』の掲示をしています。



《MEMO》
 夏期('11年7月より)には、検査場の屋根に地下水を散水し、電力使用量を抑制する為、水量が多くなっています。

(3) 散水・放流方法の見直しをしています。

58期目標		58期実績結果	評価
56期実績に対し 2%減 (m ³ /百万円)		 56期実績に対し 47.7%増 (m ³ /百万円)	52期より夏季の節電対策の為、検査場の屋根に散水をしています。又、製品冷却・洗浄への使用が増え、水投入量は56期に対して +53.8% でした。

4. 法令遵守の整備

環境活動計画の内容	実績結果	評価
必要な資格の整備をする。	○	必要な資格の整備は進展し、届出等も計画的に実施しました。
届出の確認(届出の提出)をする。	○	

(1) 環境関係の資格の取得状況

資格制度名		57期までの取得者数	58期の取得者数	取得者総数
公害防止管理者	(大気関係第一種)	1 (名)	0 (名)	1 (名)
	(水質関係第一種)	1 (名)	0 (名)	1 (名)
	(騒音・振動関係)	1 (名)	0 (名)	1 (名)
	(ダイオキシン類関係)	1 (名)	0 (名)	1 (名)
公害防止主任者 (騒音・振動関係)		1 (名)	0 (名)	1 (名)
エネルギー管理士		1 (名)	0 (名)	1 (名)
エネルギー管理員 (資質向上講習)		1 (名)	0 (名)	1 (名)
電気工事士 (第二種)		1 (名)	0 (名)	1 (名)
衛生管理者 (第一種)		2 (名)	0 (名)	2 (名)
安全管理者 (選任時研修)		1 (名)	0 (名)	1 (名)
特別管理産業廃棄物管理責任者		1 (名)	0 (名)	1 (名)
毒物劇物取扱者 (一般)		1 (名)	0 (名)	1 (名)
危険物取扱者	(甲種)	2 (名)	0 (名)	2 (名)
	(乙種1類)	1 (名)	0 (名)	1 (名)
	(乙種3類)	0 (名)	1 (名)	1 (名)
	(乙種4類)	4 (名)	0 (名)	4 (名)
	(乙種5類)	0 (名)	1 (名)	1 (名)
	(乙種6類)	0 (名)	1 (名)	1 (名)
防火管理者 (甲種)		2 (名)	0 (名)	2 (名)
プレス機械作業主任者		1 (名)	0 (名)	1 (名)
フォークリフト運転技能講習修了者		33 (名)	-1 (名)	32 (名)
玉掛技能講習修了者		8 (名)	0 (名)	8 (名)
救命講習修了者(消防) (普通：新規、再講習)		65 (名)	-4 (名)	61 (名)

5. 有害化学物質使用状況の把握とその適正管理

(1) SDS (安全データシート) による確認

※対象となる有害化学物質は確認できませんでした。



58期('18/7~'19/6)環境経営レポート

7. 排水処理施設の設置 【2007年1月設置】 【2010年5月能力アップ工事】



8. その他の環境活動等

(1) 感謝状と記念品を拝受 【2016年12月】



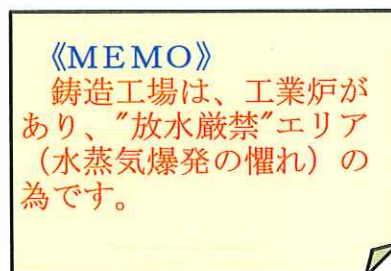
(2) 感謝状を拝受 【2017年3月】



【埼玉新聞2017年3月14日版】



(3) 注水厳禁の表示 【2008年5月設置】



(4) 救命処置(心肺蘇生法とAEDの使用)の訓練 【2018年1月5日第4回実施】



(5) 環境活動等の掲示



※ 【2010年7月9日より】

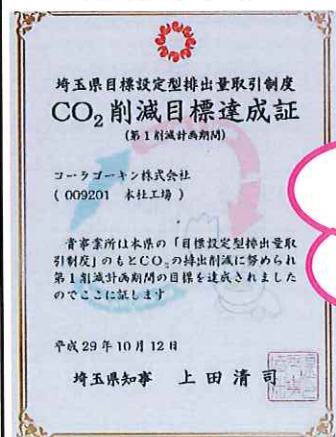


VII. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

環境関連法規の遵守状況は、7月19日に確認しました。その結果は、下表のとおりでした。

主 な 適 用 法 規	該 当 す る 活 動	遵 守 状 況
騒音規制法・振動規制法 (埼玉県生活環境保全条例)	特定施設の届出 規制基準の遵守 公害防止監督者等の選任・届出 公害防止主任者等の選任・届出	自主測定で若干規制値外 騒音抑制への計画検討中
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産廃業者との契約締結 マニフェスト管理 マニフェスト交付等状況の報告	遵 法
消防法 (深谷市火災予防条例)	少量危険物の取扱 消防活動阻害物質の貯蔵、取扱 (指定数量未満) 炉設置の届出 消防訓練計画の通知	遵 法
水質汚濁防止法 (埼玉県生活環境保全条例)	排出基準の遵守 排出水の測定	遵 法
浄化槽法	法定検査 保守点検 清掃	遵 法
エネルギーの使用の合理化に関する法律	定期報告書の作成・報告 中長期計画書の提出 エネルギー管理統括者選任・届出 エネルギー管理企画推進者選任・届出 エネルギー管理員選任・届出	遵 法
地球温暖化対策の推進に関する法律	GHG算定排出量の報告 (上記定期報告書による)	遵 法
埼玉県地球温暖化対策推進条例	地球温暖化対策計画作成・報告・公表	遵 法
埼玉県生活環境保全条例 (地下水の採取規制)	揚水施設使用等の届出(変更) 地下水採取量の報告	遵 法

過去13年間、関係機関等からの指摘はなく、違反、訴訟等も1件もありませんでした。



環境関連法規は、環境関連の書籍及び関係機関のホームページ等にて確認





VIII. 代表者による全体評価と見直しの結果

今期も、環境目標が未達成であり、停滞状況が続いているので、目標達成に向け計画を推進する。

- (1) 省エネ設備への更新について、年度末までに溶解保持炉1基の更新を計画する。
- (2) 工場の5Sを推進する。

IX. 次年度の取組内容

1. 二酸化炭素排出量の削減

- (1) 設備稼働率の向上図るため、専任者の保全活動
- (2) コンプレッサーの稼働状況の管理と点検・修理を実施（漏れ対策）
- (3) 溶解(保持)炉の効率向上は、ガス・空気の比率の見直しを実施（補修含む）
- (4) 節電（電灯のLED化と間引き, エアコンの使用制限等）

2. 廃棄物排出量の削減

- (1) 木パレ納入業者への返却の徹底
- (2) ダンボールの再利用を推進
- (3) 資源ごみの産業廃棄物から有価物での処理

3. 水資源投入量の削減

- (1) 冷却水循環施設による金型冷却に使用した水の再利用を実施
- (2) 水資源の『無駄使い防止』の掲示
- (3) 散水・放流方法（量・時間等）の見直し

4. 法令遵守の整備

- (1) 必要な資格の整備
- (2) 届出の確認(届出の提出)
- (3) 資格等の取得（教育）

5. 有害化学物質使用状況の把握とその適正管理

- (1) SDS（安全データシート）等による確認



ISO 9001
JIS Q 9001



JAB
CM004



環境省

エコアクション21
認証番号0000919

案内図



コーラ ゴーキン株式会社

〒366-0001 埼玉県深谷市中瀬550番地1

TEL 048-587-2146 (代) FAX 048-587-2213

URL <http://www.cola-gokin.co.jp/>

最先端のアルミダイカストを通じ、
先端技術の自動車部品を提供する。



工場見取図

